

# 夏休み(夏芽抑制)栽培について(夏場からの管理)

R3 アグリ技研(株)

1.目的 ①春芽増収対策 ②夏芽の萌芽抑制(追加立茎栽培法)

「夏芽収穫を抑制することにより春芽を増収することを目的とする栽培法」

2.栽培方法 (取組)

①7/中旬～下旬にかけて水分のコントロールで強制的に抑制させる。

「15～20日に1回程」

②追肥を施肥する場合も、灌水と合わせて月1回(センサイオール1を1.5袋)とする。

③休眠導入する10/中旬から徐々に灌水を増して、11/中旬頻繁に水分をえる。

「2～3日に1回程」

項目	作業	7月	8～10月				11月			12月		
		下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
	水管理	15～20日に1回(灌水で調整)						2～3日置きに刈取まで十分な灌水				
	肥料	追肥月に1～2回(30kg)					・液肥ウルル10号30kgの追肥			・PKゴー2000倍		
	防除	灌水を控え乾燥するので十分な防除(ダニ・ヨトウ・アザミウマ類は特に防除)										

## 水を控える時期の水分

土壤水分値 ※PFの数値では 2.0～3.5 手で触り判断する場合は、土を握り固まらない程度の乾燥状態とする

## 3.新栽培管理のポイント

①10月上・中旬まで灌水を控える。(燐芽は成長します)

「7/下旬から15～20日置きに灌水に切り替え11月中旬以降は2～3日置きに灌水処理する」

②地上部の養分を貯蔵根に貯めて、無駄に夏秋芽の萌芽に使用させない様な制限を行う。(若茎を出ない様にする)

「養分に貯蔵根に蓄え、若茎の消費を抑制して春芽の備える」

③水を抑制するので、十分な防除なり施肥は的確に行う。(乾燥気味で推移する「根域充実のためにアミクエは定期的な処理」)

「根域充実のために後半のアミクエの灌注は定期的処理する」